

## 2) 麦類

### (1) 種子消毒

#### イ) 風呂湯浸法

病害虫名	防除時期	防除方法
裸黒穂病	播種前	○風呂湯の温度を最初、小麦では46℃、大麦は42～44℃として、10～12時間浸漬する。 ○風呂湯が所定の温度になったとき、完全に火を消してから種子を浸漬する。浸漬中はふたを少しあけておき、温度が次第に下がるようにする。

#### ロ) 冷水温湯浸法

病害虫名	防除時期	防除方法
裸黒穂病、 なまぐさ黒穂病、 雲形病(大麦)	播種前	○水に7～15時間浸漬後、50℃の温湯に数分浸漬して温めた後に、小麦54℃、大麦53℃湯に正確に5分間浸漬する。種子を取り出したら直ちに水で冷却後、すぐに播種す ○種子を水に浸漬する時間は、下記のとおりとする。 水温5℃のとき、15時間 水温10℃のとき、12時間 水温15℃のとき、7時間 ○発芽障害を防ぐため、温湯の温度と浸漬時間は厳守する。

### (2) 耕種的防除法

病害虫名	防除時期	防除方法
赤かび病	播種前 播種時 出穂後	○種子は、塩水選(比重小麦1.22、大麦1.13)を行う。 ○適期に播種をする。 ○抵抗性品種を用いる。 ○無発病ほ場から採種する。
うどんこ病	播種前 播種時	○窒素肥料を多用しない。 ○晩播を避け、厚播をしない。 ○抵抗性品種を用いる。
株腐病	播種前 播種時	○連作しない。 ○窒素肥料を多用せず、カリ肥料を十分施用する。 ○早播を避け、厚播をしない。
さび病	播種前 播種時	○窒素肥料を多用しない。 ○適期に播種する。 ○抵抗性品種を用いる。
立枯病	播種前 播種時	○連作しない。 ○発病地では、3年以上の輪作をする。 ○発病地は堆肥、肥料三要素を十分施用し、春に窒素・カリを追肥する。 ○麦稈を材料にした堆肥は、十分腐熟させてから使用する。 ○肥切れしないようにする。 ○早播を避け、播種を適期より10日ぐらい遅らせる。 ○厚播をしない。
縞萎縮病	播種前 播種時	○連作しない。 ○発病地では、3年以上の輪作をする。 ○肥料を十分に施用する。 ○深耕を行うことで発病を抑制できる。 ○抵抗性品種を用いる。
なまぐさ黒穂病	播種前 出穂後	○連作しない。 ○保菌畑では、晩播を避ける。 ○発病穂を早期に抜き取り処分する。 ○無発病ほ場から採種する。
裸黒穂病	出穂後	○発病穂を早期に抜き取り処分する。 ○無発病ほ場から採種する。
斑葉病 (大麦)	播種前 出穂後	○連作しない。 ○発病穂を早期に抜き取り処分する。 ○無発病ほ場から採種する。
雪腐病 (紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病)	播種前 播種時 越冬後	○リン酸肥料を十分施用する。 ○適期に播種する。 ○抵抗性品種を用いる。 ○春先の消雪を早め、排水を良くする。
バクガ	収穫後	○脱穀・調製を早めに行い、十分に乾燥する。

### (3) 農薬による病害虫の防除方法

【注意】農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

#### イ) 病害虫防除体系と主な薬剤

播 種 前	根 雪 直 前	開花始期～乳熟期
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     (なまぐさ黒穂病)                      (斑葉病) ベンレート                      T 水和剤 20 ホーマ                      イ水和剤 による種                      子粉衣消毒                 </div>	<p>(雪腐病が多い地帯)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;">                     (雪腐小粒菌核病)                      バシタック水和剤                      75                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     (赤かび病)<sup>※1</sup> ストロビーフロアブル(11)                      トップジン M 粉剤 DL・水和剤・ゾル(1)                      シルバキュアフロアブル(3) チルト乳                      剤 25(3)・ワークアップ粉剤 DL・フロア                      ブル(3)・ミラビスフロアブル                 </div>

※1：開花始期～開花期の防除は必須であるが、2回目以降は作付品種および開花始期以降の気象により調整する。耐性菌が発生する可能性があるため、同一グループの薬剤を複数回散布することは避ける。主な薬剤のFRACコードについては以下に示す（体系図では薬剤名の後にかっこ書きで示す）。

- (1) MBC 殺菌剤
- (3) DMI 殺菌剤
- (7) SDHI 殺菌剤
- (1 1) QoI 殺菌剤
- (M07) ビスグアニジン